

6月議会、役員選任と一般質問

今年の6月議会は6月13日から始まりました。この定例議会では初日冒頭で議長、副議長、監査、各常任委員会の委員長や委員構成が決めることになっていました。

最近の鎌倉市議会は、午前9時半から午後6時までを原則とし、長時間の質問や休憩を避け、会期内に終わるよう、議員お互いが協力することとしています。

会期に影響を及ぼさないよう、約2週間前から役員選考委員会が設置され、事前に選考委員長と副委員長が中心となって、議会内でのやり取りを経て、初日冒頭に選挙に入れるよう整えられました。議長、副議長を目指す議員は所信表明を行ったのですが(各1名)、それが全く無効にされるという結果となりました。そのため他の役員もかなりの部分を決め直す事態が引き起こされ、結局初日の丸一日を費やすことになったのです。こうして日程は一日ずつずれていきました。

① 鎌倉の緑について——緑の維持管理のための体制について

② 障がい者雇用について——ワークステーションの現状と今後、鎌倉市障がい者2,000人雇用センターについて

今回はこの二つの大きな項目を立てて一般質問を行いました。

いずれもこれまで何度か取り上げていますが、自然災害の多いこれ

からの時代、あるいは鎌倉が本当に福祉のまちとして発展できるか、重要なテーマだと思えます。



ブログ「いやさか通信」から

トスペースボール大会



第40回を迎えた「母と子どものふれあいトスペースボール大会」。ヒバリが空高く鳴いていますが空はどんより。20チームが整列し、とても元気な宣誓がありました(6/23)。

45ℓ100袋分の草刈り



「第二中かっぱの会」のお父さん達と第二中学校敷地内の草刈りをしました。私の在学中、裏山のグリーンコースの草刈りをしたことを思い出しました(6/17)。

悪天候をものともせず



毎年6月の第2土、日は五所神社のお祭り。本祭りは雨が降り出しましたが、五所神社の神様は御輿に乗り、町の中を今年も廻り渡りました(6/9・10)。

毎年の静かなお客様



今年もヒキガエルが庭の隅のいつもの場所に現れるようになりました。門灯の光に虫が集まるのを待って、殆ど動きません。久しぶり、今年も会えたね」と声をかけます(5/26)。

遊んで食べて日焼けして



晴天に恵まれた浄明寺町内会の「地引綱」。約150人が参加。野菜の天ぶらを揚げ、地引で取れたイワシを揚げ、海遊びを満喫すると共に、お腹も一杯でした(6/2)。

頼朝公のお陰です



4月8日から始まった「鎌倉まつり」、流鏝馬を最後に大成功でした。「よりもジャパン議員連盟」の議員も各地から参加、私は連盟の会長としてお迎えしご一緒しました(4/15)。

前川あやこのホームページからブログ「いやさか通信」をご覧ください。
<http://www.maekawa-ayako.net>

共育のまち、鎌倉をつくろう



4月の初旬に地元の小学生の女の子達からもらった3匹のオタマジャクシ。メダカ達と生活を共にしながら順調に育ち、2匹がカエルとなって巣立ちを始めました。残り1匹は足は揃いましたが、まだ尻尾が残っています。カエルになるにはもう少し時間が必要。ホテイ草の上でじ〜っと何を考えているのか。まだまだ小さくて…不安です。ゆっくり考えて行き先を決めてね(2018.5.25)。

前川あやこ

無所属 鎌倉市議会議員

2005年初当選 4期目 鎌倉みらい代表

議会運営委員会委員長

教育・子どもみらい常任委員

政策法務研究会メンバー

レポート

NO.57

2018,07発行

2018年6月議会からのご報告

- 1 6月議会、役員選任と一般質問
- 2 鎌倉の緑と向き合う体制づくり
- 3 障がい者雇用2,000人を目指す鎌倉市

鎌倉の緑と向き合う体制づくり

近年の緑の成長は留まるところを知りません。これまでの保全に力を注いできた政策で、緑の多い美しい環境が作られてきました。その成果を評価した上で、防災と防犯、安全な生活のために、どのように維持管理していくかが、いま問われています。

◆県有緑地の危険樹木の伐採が進んでいる

神奈川県では「古都保存法緑地管理指針」に基づいて、危険木を1本1本行う形で伐採しています。例えば二階堂地域では今年が初めてで、地元の崖崩れの不安もかなり解消されつつあります。

◆市による伐採も計画づくりが進んでいる

H28年度に策定した「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」に基づいて、航空写真等で計測を行い、人家に影響のある61ヵ所を調査。今年度中に伐採計画をつくる予定で、県と同じ手法で伐採まで進みます。

◆子ども達と共に「緑のレインジャージュニア」

これからの緑を考える時、子ども達の関心を高めることが大変重要になります。「緑のレインジャージュニア」はそのためにつくられた組織。対象は小学4・5年生、今年は37人が受講し、講座や竹林管理を行っています。私も二中時代、グリーンコースの維持を手伝いましたが、子どもの頃から緑に関心を持ち、緑と付き合い合っていけるような教育は大切です。自分の身の

「放課後かまくらっ子」事業スタート

学童保育と放課後子ども教室を一体的に運営する事業が6月、深沢小の敷地内で始まった。子ども達の放課後の居場所をつくることで、増加する学童保育の待機児童解消につながる。2020年度までに全ての市立小学校で同事業を始める予定。12月に関谷小、2019年度には第一小、御成小など7校、2020年度には更に7校で開始予定。すでに各校では保護者への説明会が始まっている。

回りのできる範囲の緑は、自分達で整備していく、そうした活動はまちづくりの担い手を育てることに繋がります。

◆「みどり局」のような横連携組織をつくれな

市民が危険樹木や、歩行の妨げとなる雑草の繁茂を市に相談する時、公園課、みどり課、風致担当課などに分かれ、どこに相談するか解りづらい面があります。例えば以前にあった「こども局」のような組織を考え、関連する課が連携して課題解決にあたることで、市民にとっても解り易く、緑の維持管理が進むのではないかと考えます。

鎌倉市いじめ防止基本方針を改定

市は、H26年4月に「鎌倉市いじめ防止基本方針」を策定した。それから4年が経過し、神奈川県の基本方針改定にともなって本年5月に改定。この改定ができるだけ多くの方の目に触れるように要望した。いじめ防止対策として、「スクールバディ制度」をとり入れて2年、市内中学校全校で取り組んでいるが、是非全校が一つの会場で発表し合い、鎌倉市全体でいじめ防止について考えることができる場を、教育委員会が設定するよう強く要望している。

H30年度、第1回議会報告会開催

5月中旬、鎌倉市議会基本条例に基づく議会報告並びに意見聴取会が開催された。事前に鎌倉市議会議員のうち多くの議員が鎌倉駅東口、西口、北鎌倉駅、大船駅で開催のお知らせチラシを配布。12、13の両日、武道館会議室、市役所全員協議会室で行われ、報告と意見聴取に取り組んだ。市役所会場では司会役を担当したが、ゴミ処理問題の遅れについて、議会は行政が提案したものに反対するばかりでなく、前に進めることを考えよ、というご意見が印象的だった。

小中学校2校でブロック塀に問題

6月18日の大阪北部地震で、女兒が小学校のブロック塀の下敷きになり死亡した事故が発生。鎌倉市では小中学校の緊急調査を行い、その結果、第一小、第二小で控壁の無い塀が発見された。市では緊急修繕を検討している。また民有地でも除却・新フェンスの設置に補助を行っている。補助割合も拡充されているので、ぜひ活用を。

お問い合わせは ☎0467-61-3596 市建築指導課へ。

障がい者雇用2,000人を目指す鎌倉市

この度、第3期鎌倉市障がい者基本計画が策定され、重点課題の1つとして就労支援体制の推進が掲げられています。市庁舎内に障がいがある方の働く場としての「ワークステーション」。福祉センター内には「鎌倉市障がい者2,000人雇用センター」。こうした具体的な事業が始まったことは、大いに評価されることと思います。

◆4月に開設されたワークステーション

市庁舎内に障がいを持つ方が働く場ですが、現在は障がい者5人と支援者3人が在籍。封入、郵便集配、ファイリングなどが主な仕事。将来の一般企業への就労を目指して、企業、ハローワーク、作業所との連携の道筋をつけることが重要です。また市役所の雇用の仕方、仕事のあり方を根本から障がい者本位で考え直し、新たな仕組みを構築し、障がいを持つ方が働くことのできる役所づくりを目指したいと思っています。

◆2021年度までに2,000人の障がい者雇用を

障がい者の就労と社会参加を促進するため、この6月に「鎌倉市障がい者2,000人雇用センター」を開設。福祉作業所を運営するNPO法人のスタッフが常駐して、就労相談に無料でのっています。鎌倉市で障がい者手帳を持つ市民は7,200人ですが、就労している人は1/6にとどまります。これまで相談できる窓口は横須賀市内、ハローワークは藤沢にしかなく、当センターが身近な窓口となり、障がい者の自立の一助になることを期待します。

また「就労移行支援金制度(一定期間、半年以上働いた人に給付)」の策定。現行の「障がい者雇用奨励金」の啓発を進めて頂きたいと思います。